

# アクティブ・ラーニングが与えたコミュニティの変化

## —岡山県矢掛町まちづくりアンケートを一例に—

The impact on community development through active learning

— The example of Yakage MACHIZUKURI survey in Okayama Prefecture —

岩淵 泰 (岡山大学)

前田 芳男 (岡山大学)

出川 真也 (大正大学)

学生が参画するアクティブ・ラーニングは、まちづくりに影響を与えているのか。岡山大学では、岡山県矢掛町(人口約13,000人)を対象に、地域学習がまちづくり活動に与えた変化に関するアンケート調査を行った。調査に当たっては住民参加型で評価項目・要素を導出することを行った。分析に当たって、特に、(1) 学生交流で住民が期待しているものはなにか。(2) 学生交流は、市民性、団体の所属率、地域活動の活性化に貢献したのか。(3) 地域特性が生じた背景はなにか、について着目をした。学生交流がソーシャル・キャピタルに貢献するだけでなく、地域活性化の手段にもなり得る点をデータから明らかにした。

キーワード：アクティブ・ラーニング／地域社会への影響／参加型アセスメント／地域活性化

### 1. はじめに

アクティブ・ラーニングの一形態であるサービスラーニング(SL)では、その特徴として、サービスを通じて現実社会へ何らかのインパクトを与えることや、単なる体験ではなく構造化された教育的取組<sup>1</sup>であることがあげられている<sup>2</sup>。また取組にかかわる各主体(学生、地域社会、大学)のそれぞれに対して、ポジティブとネガティブ両方の効果があることも指摘されている<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> 出川・杉野他(2016)は、学習の企画立案から評価改善に至るまで、構造化した教育カリキュラムとして、地域・学生・大学・中間支援組織の参加・連携・協働によって設計することを、農山村資源を活用したサービスラーニングのプログラム開発において試みている。

<sup>2</sup> 桜井・津止(2009) p.10 参照。同書では、これらの特徴を支えるキー概念として「互惠(reciprocity)」と「省察(reflection)」を挙げている。また、唐木(2010)は「プロジェクト型の学習」「カリキュラム統合」といったSLの必要条件について触れる中で、SLが明確な社会的・実用的インパクトを企図するものであり、学習カリキュラム上の構造的に位置づけられることを志向することを指摘している。なお唐木は同書において『カリキュラム統合』『リフレクション』が、SL実践が『プロジェクト型の学習』として成立するための2つの柱となる(p.226)としている。

<sup>3</sup> 中里・吉村・津曲(2015)は、学生、地域社会、大学のそれぞれにおいて、ポジティブ、ネガティブ両面での効果が認められるとしている。その中で、地域社会に対する効果については、大学側からの視点を中心となっており、地域社会からの視点が欠けがちであることを指摘している。

では実際に、学生が参画するアクティブ・ラーニングは、その受け入れ地域のまちづくりやコミュニティに対して、具体的にどのような影響をどのくらい与えているのだろうか。岡山大学は、2020年2月から5月の3ヶ月間、岡山県矢掛（やかげ）町（人口約13,000）の全世帯（約4300）を対象にアンケート調査を実施し、町内7つの地区から計849の回答を得た。

本研究では、その結果を基に、特に（1）学生との交流で住民が期待しているものはなにか、（2）学生交流は、住民の市民性、団体への所属率、地域活動の活性化に貢献したのか、（3）7つの地区で回答特性に差が生じた背景はなにか、について分析した。その結果から、学生交流がソーシャル・キャピタルの形成に貢献するだけではなく、地域活性化の手段にもなり得る点を明らかにした。

## 2. 矢掛町のまちづくり及び若者の参画

### (1) 矢掛町のまちづくりの特徴

岡山県矢掛町は、旧山陽道の宿場町として栄えたところで、参勤交代等で大名が宿泊した本陣と脇本陣を残す歴史風情のある町である。主要産業は農業であるが、岡山県随一の観光都市である倉敷市から車で約1時間に位置しており、近年、観光や交流を柱としたまちづくりを展開している。町は、2015年を『観光元年』と位置づけ、中心市街地に物産販売所やレストランを有する交流施設や宿泊施設を開設した。また、2020年12月、国重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定され、2021年3月には、中心市街地の一端に「道の駅」が誕生した。

### (2) 若者のまちづくり参画

矢掛町では、地元の市民団体や県立高校が、児童・生徒が地域体験を通して学ぶ社会教育を積極的に行っており、それが同町のまちづくり活動の特徴となっている。

矢掛高校では、2、3年生が毎週1回、町内の老人福祉施設や図書館、保育園、小学校などに行き、利用者との触れ合いや業務の手伝いなどを1年間体験する「矢掛学」と呼ばれる授業を2010年から行っている。また、「やかげ小中高こども連合YKG60」は、子どもの自主企画による諸活動を保護者を中心とした大人が支援しており、まちなかでは一年を通して小学生から高校生までが地域のイベント等に参画し学ぶ姿が見ることができる<sup>4</sup>。アクティブ・ラーニングの定義はいくつかあるが、グループ討論や反転学習をするといった外形的なものにとどまらず、児童生徒が互いに助け合いながら教室外で住民と深く触れ合いながら活動するという意味で、学ぶ意欲や態度においても真に能動的な深い学びができていると言える。

他方、2012年から岡山大学でも、留学生が日本の地域文化を体験するために矢掛町中川地区江

---

<sup>4</sup> 井辻(2020)にYKGの誕生背景の他、高校や公民館での学びも紹介されている。井辻は矢掛町の暮らしを、「子どもたちを支えながら、大人の方が楽しませてもらったり、成長させてもらったりしています。狭い街だからこそ、いろんなことが有機的に繋がっていく良さが矢掛町にはあり、それを受け入れ暮らしている人達が作っているコミュニティはなんとも言えない心地よさです。」(p.66)と述べている。

良集落と交流を行っている<sup>5</sup>。岡山大学は、大学及び地域の国際化を進めるため留学生のまちづくりを掲げ、江良地区の住民組織との協働により、田植え、稲刈り、祭り、ホームステイといった体験交流を通年で行っている。これにより集落では、2015年に60年ぶりに神輿が復活するなど、目に見える活性化が実現した。2020年度には、江良集落が、SDGsの理念に照らして岡山大学の学生達と「集落のフードロス問題」解決に係る活動を行っている。同年6月には、コロナ禍で生活が困窮する留学生に対して、江良集落、山ノ上集落、下高末集落、羽無集落から米一トンが寄贈された<sup>6</sup>。

こうした大学―地域の交流の背景には、岡山大学が文部科学省留学生拠点整備事業に採択され(2012年度～2014年度)、その事業終了後にも大学独自プログラムとして活動を継続していること、江良集落が「岡山県備中県民局協働事業」の支援に続き、「おかやま元気!集落事業」の登録集落(2018年3月登録)として「世界一の田舎づくり」を目指していることが挙げられる<sup>7</sup>。

### 3. アンケート調査の実施概要及び結果

#### (1) アンケート調査の目的及び実施概要

##### 1) 調査の目的

本研究では、上記のとおり若者のアクティブ・ラーニングのフィールドとなっている矢掛町において、これがまちづくりやコミュニティにどのような影響を与えているか、住民に対するアンケート調査を行い明らかにすることとした。

本調査に対する行政の期待は、学生交流がまちづくりにプラスの影響を与えているというエビデンスを得ることである。経験的・感覚的に分かっているプラス効果を明示し、政策として高校や大学との連携が重要であり、その支援の必要性を裏付けるものである。また、大学としても、こうした教育において一方的にメリットを享受するだけでなく、互恵性があることを確認できることを期待した。

本調査は、岡山大学地域総合研究センター(担当:岩淵泰と前田芳男)と大正大学地域創生学部・エンrollment・マネジメント研究所(担当:出川真也)が協働で行ったものである。両校は、2019年度より、参加型地域教育アセスメントの共同開発を進めている。

##### 2) 実施概要

アンケート票は、町が毎月発行している「町広報誌」と一緒に各戸に配布され、郵送により回収した。調査票は、次ページに示すとおりである。本票の設問は、中川地区江良集落住民や高校生との意見交換会を通じて作成された。アンケートの結果を、研究機関の学術的な活用に限定せず、地域の人々が知りたい情報を集め、その後のまちづくりに活用することを企図したためである。

<sup>5</sup> 岩淵(2014)に文部科学省留学生拠点整備事業の取組が紹介されている。岡山大学は、「若者が地域と対話するまち」を掲げ、留学生が岡山を知り、体験し、愛着を持つことで、地域と協働して「岡山の親善友好大使」を育てるプログラムを作成した。矢掛町大名行列をサムライ・トリップという名で留学生に紹介し、地域と交流する機会を提供した。

<sup>6</sup> 2020年6月16日、留学生130名にお米が配られた。「矢掛町江良集落「輝け!江良元気会」より、学生の支援のためお米1トンを寄贈いただきました」岡山大学広報([https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix\\_id556.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id556.html))

<sup>7</sup> 岩淵(2017)に岡山大学と矢掛町による協働のまちづくり事例が紹介されている。

### 3) 配布回収状況

矢掛町の全世帯に調査票を配布し、849 の回答を得た（回答率 19.8%）。回答者の内訳は、男性 494 人（58.2%）、女性 331 人（39.0%）、その他 2（0.2%）、無回答 22（2.6%）であった。

表 1. 地区別配布・回収数

地区別	配布	回収	割合 (%)
矢掛	1,046	178	17.0
三谷	561	128	22.8
川面	611	122	20.0
山田	585	113	19.3
小田	597	109	18.3
中川	503	109	21.7
美川	387	86	22.2
欠損・その他		4	
合計	4,290	849	19.8

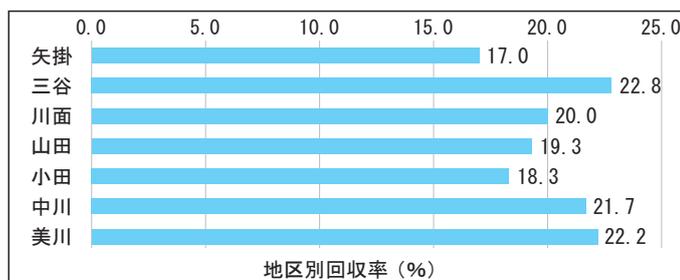


図 1. 地区別 回答割合

矢掛町内には、小田、川面、中川、美川、三谷、矢掛、山田の 7 地区があり、このうち旧宿場町の街並みが残る矢掛地区が中心市街地となる。岡山大学が交流を続けているのは、中川地区である。図 2 は、年齢別の回収数を示しており、70 歳代、60 歳代の回答が多くなっている（調査では、各世帯のうち回答すべき人を指定しなかった）。参考までに、表 2 及び図 3 に矢掛町の年齢別人口を示した。

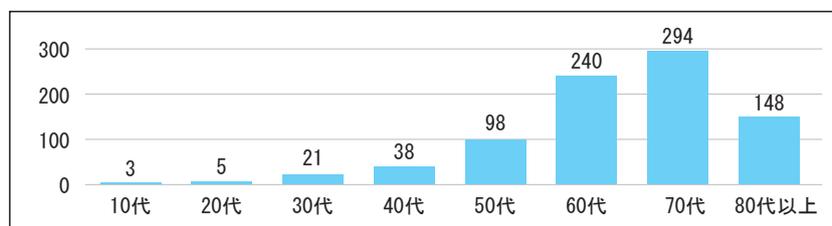


図 2. 年齢層別（10 歳区分）回収数（人）

表 2. 年齢層（10 歳区分）別人口（人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
1,223	1,030	1,341	1,671	1,650	2,408	1,967	1,973

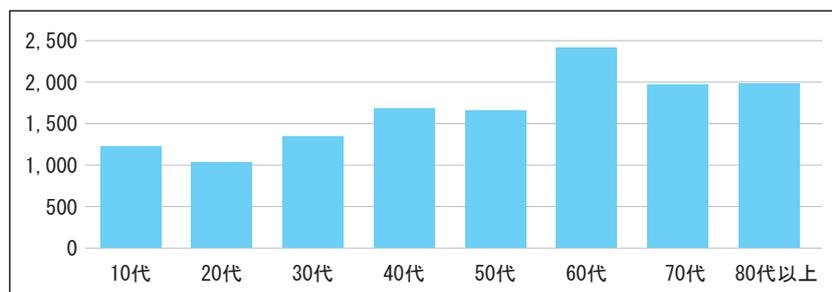


図 3. 矢掛町 年齢層別（10 歳区分）人口（H27 国調）

## (2) アンケート結果

図4は、「設問2：若者の交流が行われていますが、そのような活動が、あなたやあなたの周囲に与えた変化を教えてください。」に対する回答結果である。

図5は、「設問3：若者の交流が行われていますが、そのような活動が地域のまちづくりに与えた変化を教えてください。」に対する回答結果である。

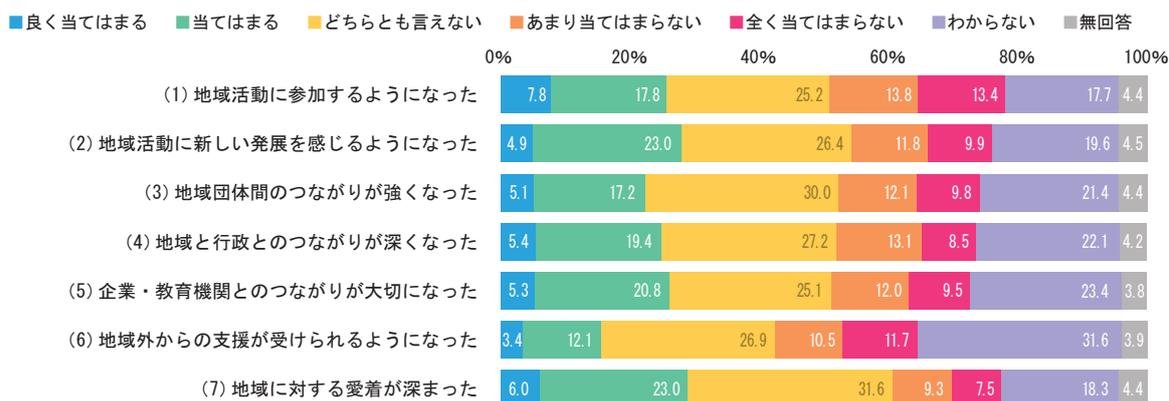


図4. 若者の交流が回答者自身に与えた影響

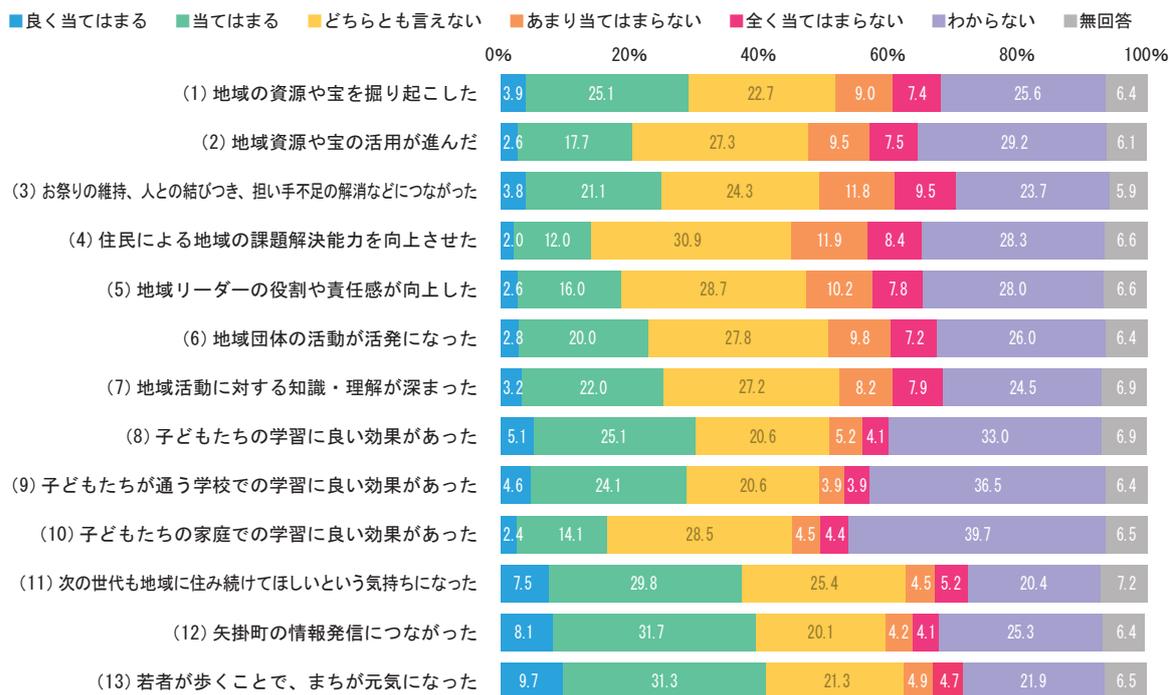


図5 若者の交流が地域のまちづくりに与えた影響

図4からは、「地域活動の新しい発展を感じるようになった」や「地域への愛着が深まった」ことを評価している住民が多いことが分かる。

また、図5では、「次世代にも地域に住み続けて欲しい気持ちになった」「矢掛町の情報発信につながった」「若者が歩くことで、まちが元気になった」ことを評価した住民が多かった。一方、「住

民による課題解決能力を向上させた」「地域リーダーの役割や責任感を向上させた」「子どもたちの家庭での学習により効果があった」について、比較的低い評価がなされる結果となった。

7つの地区を比較すると、いくつかの特徴的な違いがみられた。

例えば、中川地区では、留学生とフィールドワークを行い、60年ぶりに神輿も復活したこともあり、(質問1) 地域の資源、宝の掘り起こし(①良くあてはまる+②当てはまる=37.7%)や(質問3) 祭りの維持、担い手不足解消(①+②=32.1%)などに、他地区に増して高い数字が表れている。

その他では、矢掛地区で、(質問1)で32.6%(①+②)、質問3で26.9%(①+②)と比較的高くなっている。矢掛地区では、小中学生、高校生の活動が盛んに行われているほか、岡山大学の大学生によるフィールドワーク(聞き取り調査)なども行われていることが、この結果に反映されていると考えられる。

表3 矢掛町7地区におけるまちづくりの変化(1)

	総計	(1) 地域の資源、宝の掘り起こし						(2) 地域資源や宝の活用促進						(3) 祭りの維持、担い手解消等						(4) 住民の課題解決能力の向上										
		①良くあてはまる	②当てはまる	③どちらとも言えない	④あまり当てはまらない	⑤全く当てはまらない	⑥わからない	無回答	①良くあてはまる	②当てはまる	③どちらとも言えない	④あまり当てはまらない	⑤全く当てはまらない	⑥わからない	無回答	①良くあてはまる	②当てはまる	③どちらとも言えない	④あまり当てはまらない	⑤全く当てはまらない	⑥わからない	無回答								
居住区	小田	100.0	4.6	21.1	22.9	8.3	9.2	22.9	11.0	4.6	11.0	27.5	8.3	8.3	29.4	11.0	2.8	24.8	22.0	7.3	10.1	22.0	11.0	0.9	10.1	33.0	8.3	8.3	26.6	12.8
	川面	100.0	4.1	23.0	20.5	10.7	5.7	28.7	7.4	3.3	12.3	25.4	12.3	5.7	35.2	5.7	2.5	20.5	22.1	10.7	9.0	29.5	5.7	2.5	8.2	27.0	17.2	5.7	32.8	6.6
	中川	100.0	2.8	34.9	22.0	7.3	7.3	22.0	3.7	2.8	24.8	27.5	9.2	8.3	23.9	3.7	5.5	26.6	29.4	7.3	5.5	22.0	3.7	2.8	21.1	30.3	8.3	5.5	26.6	5.5
	美川	100.0	3.5	23.3	27.9	5.8	5.8	26.7	7.0	1.2	14.0	31.4	9.3	5.8	30.2	8.1	4.7	15.1	24.4	19.8	7.0	22.1	7.0	1.2	8.1	34.9	14.0	5.8	29.1	7.0
	三谷	100.0	3.1	17.2	19.5	11.7	8.6	35.2	4.7	1.6	14.8	21.9	9.4	7.8	39.8	4.7	1.6	16.4	23.4	10.9	10.9	32.0	4.7	2.3	6.3	32.0	10.9	8.6	35.2	4.7
	矢掛	100.0	3.4	29.2	25.3	9.6	7.3	19.7	5.6	2.8	19.7	33.1	9.6	8.4	20.8	5.6	3.9	23.0	27.0	11.2	10.1	20.2	4.5	1.7	12.9	34.3	11.8	11.2	23.0	5.1
	山田	100.0	6.2	26.5	22.1	8.0	7.1	24.8	5.3	1.8	26.5	23.9	8.8	7.1	27.4	4.4	6.2	19.5	21.2	17.7	11.5	18.6	5.3	2.7	17.7	24.8	13.3	9.7	26.5	5.3
	その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
無回答	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3

表4 矢掛町7地区におけるまちづくりの変化(2)

	総計	(5) 地域リーダーの責任感向上						(6) 地域団体の活動の活性化						(7) 地域活動の知識・理解の深まり						(8) 子どもの学習に効果										
		①良くあてはまる	②当てはまる	③どちらとも言えない	④あまり当てはまらない	⑤全く当てはまらない	⑥わからない	無回答	①良くあてはまる	②当てはまる	③どちらとも言えない	④あまり当てはまらない	⑤全く当てはまらない	⑥わからない	無回答	①良くあてはまる	②当てはまる	③どちらとも言えない	④あまり当てはまらない	⑤全く当てはまらない	⑥わからない	無回答								
居住区	小田	100.0	4.6	16.5	26.6	6.4	7.3	25.7	12.8	1.8	21.1	27.5	4.6	6.4	27.5	11.0	0.9	20.2	31.2	5.5	7.3	23.9	11.0	3.7	21.1	21.1	6.4	3.7	32.1	11.9
	川面	100.0	1.6	13.1	26.2	13.9	6.6	32.0	6.6	2.5	15.6	27.9	12.3	5.7	29.5	6.6	3.3	20.5	23.8	9.8	8.2	26.2	8.2	3.3	30.3	14.8	8.2	1.6	33.6	8.2
	中川	100.0	4.6	26.6	28.4	6.4	7.3	22.0	4.6	4.6	23.9	32.1	6.4	6.4	22.0	4.6	4.6	28.4	23.9	11.0	6.4	20.2	5.5	4.6	33.9	20.2	2.8	3.7	29.4	5.5
	美川	100.0	1.2	11.6	30.2	12.8	4.7	32.6	7.0	0.0	24.4	25.6	14.0	4.7	22.1	9.3	1.2	23.3	30.2	9.3	4.7	22.1	9.3	4.7	17.4	29.1	4.7	4.7	32.6	7.0
	三谷	100.0	1.6	11.7	25.8	12.5	7.0	35.9	5.5	2.3	14.1	23.4	10.9	7.0	38.3	3.9	2.3	14.8	25.0	8.6	7.0	37.5	4.7	4.7	23.4	18.8	3.9	5.5	39.8	3.9
	矢掛	100.0	1.7	16.9	33.1	9.6	8.4	25.3	5.1	3.9	21.9	30.9	8.4	8.4	21.3	5.1	3.4	24.7	29.8	7.3	8.4	21.3	5.1	5.1	23.6	23.6	5.6	4.5	32.0	5.6
	山田	100.0	3.5	15.9	29.2	10.6	11.5	23.9	5.3	3.5	21.2	26.5	13.3	9.7	20.4	5.3	6.2	23.0	27.4	7.1	11.5	18.6	6.2	9.7	24.8	18.6	4.4	4.4	31.0	7.1
	その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3

また、興味深いのは、(質問4)の住民の課題解決能力の向上について、中川地区は、23.9%(①+②)で最も高く、山田地区が、20.4%(①+②)が高い数字を残していることだ。

(質問 5) の地域リーダーの責任向上では、中川地区が 31.2% (①+②) となっており、他の 6 地区よりも 10 ポイント以上高くなっている。(質問 6) の地域団体の活動が活発したかでは、川面地区と三谷地区以外は、20%以上のとなっている。

注目したいのは、(質問 7) の地域活動の知識・理解の深まりで、中川地区は、33% (①+②) であり、山田地区も 29.2% (①+②) で高くなっている。中川地区では、公民館活動も盛んであり、大学生の現地授業に地域住民も参加するなどの経験が、この結果に反映されていると考えられる。(質問 8) の子どもの学習への効果では、①(良く当てはまる) としての割合が、山田地区で比較的高い 9.7%となっている。

#### 4. まとめ

学生のアクティブ・ラーニングのフィールドとなることで、その地域のまちづくりやコミュニティにどのような影響があるかをアンケート調査で確認したところ、地域資源の発掘、伝統行事の維持、地域の情報発信などで効果があったと感じている住民が多いことが分かった。また、住民自身が地域に対する愛着が深まり地域に新しい発展を感じるようになったと思っていることも確かめられた。

岡山大学と 10 年近く交流が続く中川地区、子どもたちへの参画機会の多い矢掛地区では、若者、子どものアクティブな活動がまちづくりに好ましい効果を及ぼしていることが明らかになった反面、他の地区においては相対的に高評価が得られなかった。若者との交流とは異なったまちづくりの存在も想定される。今後、より詳細な聞き取り調査などを行う必要がある。

2021 年 2 月 21 日矢掛町中川公民館にて本アンケート結果の一部を町民のみなさんと共有した。住民の方から以下のような意見を頂いた。(1) 地区ひとつを分析しても、地区内のエリアでまちづくりの様子が異なっている。(2) 中川地区江良集落のように、地域団体の交流を活発化させたい。(3) 若者の交流がなければ、地域で出会わなかった人も多かった。(4) 学生が地域の宝探しを行うことで、集落での気づきもあった。(5) 子ども達の喜ぶ姿が嬉しかった。(6) 交流により変化が生じているのは、雰囲気を感じていたが、大学がデータを基に言語化し、分かりやすかった、などである。

今後の展開としては、行政、公民館、商店街などと共に、アンケートをまちづくりの資料として分析を続けたい。

## アンケート調査票

アンケートの答え方は、当てはまるものに○を付けてください。

基本属性	
性別	男・女・その他
年齢	10代、20代、30代、40代、 50代、60代、70代、80代以上
家族構成	単身・夫婦・二世帯同居・三世帯同居・その他
外国人ホームステイの受け入れ実績	ある・ない
地域づくりの団体に参加していますか？	している・していない
居住地区	小田、川面、中川、美川、三谷、矢掛、山田、その他

1. 矢掛町に岡山大学の学生や留学生が訪問して地域で交流・学習活動を行っています。このことを知っていますか。その活動に参加・協力したことはありますか。

設問	
(1) 活動していることを知っていますか？	はい・いいえ
(2) その活動に参加または協力をしたことはありますか？	はい・いいえ

2. 若者との交流が行われていますが、そのような活動が、あなたやあなたの周囲に与えた変化を教えてください。

設問	① 全くあてはまる ② 当てはまる ③ どちらとも思えない ④ あまり当てはまらない ⑤ 全く当てはまらない ⑥ わからない
(1) 地域活動（お祭り、消防団、子供会、サロンなど）に参加するようになった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(2) 地域活動に新しい発展を感じるようになった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(3) 地域団体間（子供会、子育て世代、高齢者、消防団、福祉サロン）のつながりが強くなった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(4) 地域と行政（水害復興、農業、福祉、観光など）とのつながりが深くなった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(5) 企業・教育機関（高校・大学）とのつながりが大切になった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(6) 地域外（岡山県・国・まちづくり団体など）からの支援（財政面含む）が受けられるようになった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(7) 地域に対する愛着が深まった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥

3. 若者との交流が行われていますが、そのような活動が地域のまちづくりに与えた変化を教えてください。

設問	① 全くあてはまる ② 当てはまる ③ どちらとも思えない ④ あまり当てはまらない ⑤ 全く当てはまらない ⑥ わからない
(1) 地域の資源や宝（特産品開発、文化・伝統、お祭りや歴史遺産、おもてなしの心、まちづくりのアイデアなど）を掘り起こした	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(2) 地域資源や宝の活用が進んだ	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(3) お祭りの維持、人との結びつき、担い手不足の解消などにつながった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(4) 住民による地域の課題解決能力を向上させた	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(5) 地域リーダーの役割や責任感が向上した	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(6) 地域団体（農業、福祉、伝統・文化活動）の活動が活発になった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(7) 地域活動に対する知識・理解が深まった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(8) 子どもたち（小学生～高校生）の学習に良い効果があった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(9) 子どもたちが通う学校での学習に良い効果があった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(10) 子どもたちの家庭での学習に良い効果があった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(11) 次の世代も地域に住み続けてほしいという気持ちになった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(12) 矢掛町の情報発信につながった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥
(13) 若者が多くことで、まちが元気になった	① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥

4 自由記述：若者の交流についてご意見・ご感想があれば教えてください。

( )

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

御連絡先をご記載ください。本調査以外の用途には使用しません。

住所：  
電話番号：  
メールアドレス：

図5. 学生交流を通じた地域の変化に関するアンケート調査票

### 参考文献

- 井辻美緒 (2020) 「私が矢掛町を好きになったワケ」『高梁川』、高梁川流域連盟 No.78、pp.59-pp.66.
- 岩淵泰 (2017) 「地方創生時代のまちづくり—矢掛町大名行列 in サンフランシスコを一例に—」『高梁川』75号、pp.57-69.
- 岩淵泰 (2014) 「岡山における留学生交流拠点整備事業—参加と対話の可能性について—」、『留学交流』、2014年9月号、Vol.42、pp.22-27.
- 唐木清志 (2008) 『子どもの社会参加と社会科教育 日本型サービスラーニングの構想』東洋館出版社
- 桜井政成・津止正敏編著 (2009) 『ボランティア教育の新地平 サービスラーニングの原理と実践』ミネルヴァ書房
- 出川真也編著・杉野卓也企画 (2016) 「農山村資源を活かしたサービスラーニングの実践的改善に関する研究—地域・学生・大学・中間支援組織のコラボレーションによる地域貢献と学習の相乗化—」東京農業大学多摩川源流大学プロジェクト事務室
- 中里陽子・吉村裕子・津曲隆 (2015) 「サービスラーニングの高等教育における位置づけとその教育効果を促進する条件について」『アドミニストレーション』第22巻第1号

### インターネット

矢掛町江良集落「輝け！江良元気会」より、学生の支援のためお米1トンを寄贈いただきました。岡山大学広報([https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix\\_id556.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id556.html)) (2021年2月22日確認)